招待講演

招待講演１では、明治大学文学部教授の齋藤 孝先生から「人間関係をつくるコミュニケーション力」と題してご講演いただきました。齋藤先生は「コミュニケーションの基本は“リアクション”であり、リアクション力は年々衰えるので、鍛えないといけない。相手の話には、まずは同調することが大切である」と会場の聴衆者にリアクションを求め、「“雑談”、“テキパキやりとり”、“クリエイティブなアイディア出し”の３つがコミュニケーションの大枠である」とまとめられました。

招待講演２では、シスメックス株式会社の代表取締役会長兼社長CEOの家次 恒先生から「潮目を読む」と題してご講演いただきました。家次先生は、会社が急成長していったのは海外での事業展開が成功したからであり、「新興国や先進国など国の状況で異なる顧客の期待に応えたことが会社の成長を支えた。あたりまえの認識は変わり進化するので、相手・環境・時代で変わる顧客の声に常に耳を傾けることが重要であり、品質とは“顧客満足”である」とグローバル企業の経営者ならではのご講演をされました。

招待講演３では、エビス法律事務所弁護士の住田裕子先生から「ジェンダー平等」と題してご講演いただきました。住田先生は、「日本では『夫は仕事・妻は育児』という“固定的性別役割分担意識”が根強く、この意識を心の奥底から変えなければならない」とし、ご自身の生い立ちを踏まえ、女性が社会で活躍するために「就職・昇進における差別禁止、セクハラ・マタハラ・パワハラの禁止などを進め、これらも制度があるだけでは意味はなく、実態が伴うことが必要である」と訴えられました。

招待講演４では、株式会社毎日放送（MBS）のアナウンサー松川浩子氏に座長をしていただき、建築家の安藤忠雄先生から「人生100年希望を持って生きる」と題してご講演いただきました。安藤先生は初めに「この度の新型コロナウイルス感染症に対する医療従事者の方々の働き方は凄い。責任感と勇気を持って働いており、久しぶりに感銘を受けた。時代はどんどん変わっていくから、それにうまく対応すれば結構楽しいことがいっぱいある。それで100歳までいったらよい」と話されました。また、聴衆者に向けて「ここにおられる方々が100歳まで生きて、一歩でも前進して社会に何ができるかを考えないといけないのではないか」と熱を込めて語られました。

特別講演１では、学習院大学経済学部教授の守島基博先生から「新たな時代の人材・組織マネジメント」と題してご講演いただきました。守島先生は、「少子高齢化や生産年齢人口の急減など働く人は大きく変化していることから、人材・組織マネジメントも大きく変わってきている。よって、一人ひとりの人材を大切にするマネジメント、すなわち『全員戦力化』が重要である」と言われ、「働く人たちの“強み”と“弱み”を丁寧に把握するなどの『タレント・マネジメント』、働く人を制度による管理ではなく一人ひとりを個別に評価・支援し成長させる『パフォーマンス・マネジメント』が必要である」と貴重なお話をいただきました。

特別講演２では、内閣官房新型コロナウイルス等感染症対策推進室室長の迫井正深先生から「新型コロナ対応を踏まえた日本の医療のこれから」と題してご講演いただきました。迫井先生は、コロナの動向について「第１波からだんだんと波は大きくなっており、ウイルスの動態が変わってきている。オミクロン株の日本での死者数は第６波より大きい。次の感染症危機に備えるために政府の司令塔機能の強化と感染初期から速やかに立ち上がり機能する保健医療体制の構築等」の必要性を唱えられました。

特別講演３では、東北大学大学院医学系研究科教授の押谷 仁先生から「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）への対応とその課題」と題してご講演いただきました。押谷先生はこれまでのコロナ対応を振り返り、

招待講演